

単元に係る生徒の実態
<p>本学級の生徒は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度が高く、授業への取り組みも意欲的である。ペアでの表現活動にも楽しく取り組んでいる。教え合う雰囲気があるのでペア活動が成立する。個別指導が必要な生徒に対してはペアの相手を考え、助言体制を考えながら展開していく。お互いに切磋琢磨する雰囲気があることから、教え合いながら練習するように助言していき、ペアワークを充実させていきたい。</p> <p>本単元は題材として日本の火山と世界遺産を取り上げている。本校では5月下旬の修学旅行に向けて、4月から京都・奈良の世界遺産について考える機会を設定している。日本の火山について具体的な数字をあげて説明する文章や、世界遺産について説明した文章を読み、それらを参考にして、日本の地形や世界遺産などについて、英語で発信する場を設定することで、4技能を統合的に活用する授業を進めていきたい。本課の新出文型は「現在完了形」である。現在完了形を使って、自分が継続して行っていることや経験として持っていることを英語で表現する能力を育成し、文構造を定着させていきたい。</p>

単元のゴール
<p>最終のゴールは My Project7「あの人にインタビューしよう」でも扱っているように、修学旅行中、京都で実際に外国人にインタビューすることである。相手の出身国や日本への滞在期間、日本の感想をインタビューしたり、共通の話題を見つけて会話を続けたりする。最後に世界平和に対してのメッセージをしおりに書いてもらい相手の考えを理解する。その前段階として、本単元は日本の火山や世界遺産を取り上げ、日本の地形や京都の世界遺産について具体的に考えさせることをねらいとすると同時に、現在完了形の理解・定着を図り、外国人にインタビューするゴールへつなげていく。</p>

コミュニケーション活動	
☆聞くこと ★話すこと	☆読むこと ★書くこと
<p>☆ALT、友達の行ったことがある国、その回数や感想などについて必要な情報を聞き取る。</p> <p>☆桃子とりサの対話について、必要な情報を聞き取る。</p> <p>☆日本の火山についてのスピーチや世界遺産の関する説明を聞き、話の概要を捉える。</p> <p>★行ったことがある国、その回数や感想などについて、事実や自分の考えを伝えたり、相手からの質問に答えたりする。(やり取り)</p> <p>★京都にある世界遺産について、まとまりのある内容を友達に話す。[発表]</p>	<p>☆教科書本文について、概要を捉えて読む。</p> <p>☆教科書本文について、必要な情報を読み取る。</p> <p>☆世界遺産について書かれた文章の概要を捉える。</p> <p>★自分の気持ちについて、簡単な語句や文を用いて正確に書く。</p> <p>★対話や手紙を読み、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く。</p> <p>★京都にある世界遺産について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く。</p>

主体的・対話的な学びに向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にたくさんの練習をさせるために、全員参加、全員成長の課題設定をする。 ・自分の考えをまとまりのある文章で書く活動に取り組む際、自分で考える時間、友達と学び合う時間、発表し合う時間を独立して確保する。 ・発問によって、学習形態(個人活動、ペア活動、グループ活動)を使い分ける。

深い学びに向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えた文章の表現と友達の考えた文章の表現を比べ、共通部分を探したり、どちらの表現が適切かなどの視点で取り組ませ、見方・考え方を働かせるようにする。 ・ペア活動やグループ活動の際は、机間巡視をしながら、参考となる意見や発想を収集し、活動の後で、全員に紹介し、生徒の考え方を広げる。

単元計画	
◎学習課題・問題 ○本時の課題	◆各時間終了後の児童の姿
<p>1時間目</p> <p>◎現在、過去、現在完了(継続)の使用場面について考える。</p> <p>○場面設定に合った3種類のラブレターを書く。</p>	<p>◆現在完了形(継続)の使用場面がわかる。</p> <p>(5)書くこと(ア)</p> <p>自分の気持ちについて、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。</p>
<p>2・3時間目</p> <p>◎教科書2-1の内容理解と音読</p> <p>○対話の内容から、太郎についてわかることをノートにまとめる。</p>	<p>◆教科書2-1の内容を理解し、音読することができる。</p> <p>(5)書くこと(イ)</p> <p>対話の内容について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p>
<p>4時間目</p> <p>◎過去形と現在完了形(経験)の使用場面について考える。</p> <p>○「行ったことがある国や場所」について伝え合う。</p> <p>○「世界の果てまで行ったきり」の英語版タイトルを考える。</p>	<p>◆現在完了形(経験)の使用場面がわかる</p> <p>(3)話すこと[やり取り](イ)</p> <p>行ったことがある国、その回数や感想などについて、事実や自分の考えを伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。</p>
<p>5・6時間目</p> <p>◎教科書2-2の内容理解と音読</p> <p>○手紙を読み、太郎への返事をノートにまとめる。</p>	<p>◆教科書2-2の内容を理解し、音読することができる。</p> <p>(5)書くこと(イ)</p> <p>手紙を読み、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。</p>
<p>7・8時間目</p> <p>◎教科書2-3の内容理解と音読</p> <p>○教科書を参考に、富士山・京都にある世界遺産について、ノートにまとめ、発表する。</p>	<p>◆教科書2-3の内容を理解し、音読することができる。</p> <p>(4)話すこと[発表](イ)</p> <p>富士山と京都にある世界遺産について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。</p>

<p>学習活動</p>	<p>学習内容</p>	<p>○主体的・発語的な学びに向けて ◎新しい学びに向けて</p>	<p>・指導上の留意点 ◆評価</p>
<p>1 Bingo 2 Chants 3 Review 4 New Words</p>	<p>既習単語を練習する。 ターゲット表現を練習する。 既習表現を練習する。 新出単語を練習する。</p>	<p>○練習した単語について学び合う活動 (生徒の反応を見て課題設定)</p>	<p>・雰囲気作り、テンポ作り、リズム作り ・Praise メインで自信をつけさせる。</p>

<p>「～へ〇回行ったことがある」という英文を相手に伝えることができる</p>	<p>5 現在完了形の文構造導入 「～へ〇回行ったことがある」という内容で ALT と対話しながら、インタラクティブに話す。 A: We are going to school trip next week. B: Are you? Where are you going to visit? A: Kiyomizudera. B: I have been to Kiyomizudera once. It was amazing. How about you? S1: Kinkakuji. B: I have been to Kinkakuji twice. It was beautiful.</p>	<p>○対話を聞く→パートナーと話す →パートナーに説明すること通し、本日のテーマを理解させる。</p>	<p>・ Presentation → Practice → Production → Praise やって見せ→練習させ→(自己表現などで) 成果をだし→できたことを賞賛する。 ・ 日本語の説明なしで、本日のテーマを生徒が理解できるように授業を展開する。 ・ 文構造導入では、回数を表す語句の使い方を提示し、理解の手助けをする。</p>
<p>6 ペア練習① 自分が行ったことがある場所について5文(0、1、2、3回、何回も)パートナーに伝える。 1 I have been to () once. 2 I have been to () twice. 3 I have been to () three times. 4 I have been to () many times. 5 I have never been to () .</p>	<p>○ペアのパートナーと協力し、正しい文構造で全員が言えるように練習させる。</p>	<p>・ 個別指導が必要な生徒と英語の理解力が高い生徒を組ませるようなペアをつくり、教え合いながら活動するよう指導する。 ・ タイムアップリッシャー (30秒) ・ クリアした生徒への発展課題の用意。 ・ 全員がクリアできるまでペアを変えながら取り組ませる。 ◆ 「～へ〇回行ったことがある」という英文を相手に正しく伝えることができる。(表現)</p>	
<p>7 ペア練習② ② JTE と ALT の対話をまとめ、パートナーにレポートする。(対話のあと) Ken has been to _____. Regan has been to _____.</p>	<p>○じゃんけんが勝った方が Ken、負けた方が Regan についてレポートとすることにより、主体的に考えることとなる。ペアで課題をクリアすることにより、対話的になり、気が付きが生まれる。 ○ ALT の英語での説明を聞き、パートナーと話し合い、理解を深める。</p>	<p>・ 理解を深めようとする手立て、雰囲気作り。 ・ ALT に任せる。日本語でのフォローはしない。 ・ 机間巡視による全体把握、エリシット。 ・ 接続詞 if を使用しているグループがあるか把握し、全体にフオーカスする。 ・ 各グループ1枚ホワイトボードを使用し、発表させ、全体で振り返る。</p>	
<p>8 過去形との違い I went to Tokyo. I have been to Tokyo. I have gone to Tokyo. 9 英語版タイムトルを考える 「世界の果てまで行ったきり」を英語版タイムトルにする。 (EX) You have to go to a town in a foreign country. And you try some missions to pass. You can come back Japan if you clear the missions. If you can't pass all of them, you have gone to a foreign town.</p>	<p>○自分で考える→パートナーと答えを比べる→適切な文の完成 ◎生徒の作品から多様な表現の共有 EX: have been to と have visited eels, an eel, any eels</p>	<p>・ エリシットしながら、have,has の使い分けについて再確認する。 ・ 一人一人が自分の英文を振り返れるようにする。</p>	
<p>7 板書計画</p>	<p>Program 2-2 現在完了形(経験) have,has + 動詞の過去分詞形</p>		

<p>1 Bingo 2 Chants 3 Input 4 New Words 5 現在完了(経験)</p>	<p>1 構造 誰が ～に行ったことがある 回数 I have been to ~ once twice 〇 times have never been to ~ 0回 2 違いは? I went to Tokyo. I have been to Tokyo. I have gone to Tokyo.</p>
<p>① Presentation ② Practice (1) Talking (2) Speaking (3) Reporting ③ 過去形との違い ④ 英語版タイムトル ⑤ Writing</p>	<p>2 違いは? I went to Tokyo. I have been to Tokyo. I have gone to Tokyo.</p>